

ゴナールエフ皮下注ペン150
 ゴナールエフ皮下注ペン300
 ゴナールエフ皮下注ペン450
 ゴナールエフ皮下注ペン900

【この薬は？】

販売名	ゴナールエフ皮下注ペン150 Gonalef Pen 150 for S.C. Injection	ゴナールエフ皮下注ペン300 Gonalef Pen 300 for S.C. Injection	ゴナールエフ皮下注ペン450 Gonalef Pen 450 for S.C. Injection	ゴナールエフ皮下注ペン900 Gonalef Pen 900 for S.C. Injection
一般名	ホリトロピン アルファ (遺伝子組換え) Follitropin alfa (genetical recombination)			
含有量 (カートリッジ 1本中)	11.15 µg	22.3 µg	33.4 µg	66.9 µg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- この薬は、ヒト卵胞刺激ホルモン（F S H）製剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
 - ・ 女性の卵巣に働きかけ、黄体形成ホルモン（L H）と協力して卵子を作る働きがあります。
 - ・ 男性の精巣に働きかけ、黄体形成ホルモン（L H）と協力して精子をつくる働きがあります。
- 次の目的で処方されます。
 - ・ **生殖補助医療における調節卵巣刺激**
 - ・ **視床下部一下垂体機能障害又は多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発**
 - ・ **低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症における精子形成の誘導**
- この薬が、精子形成の誘導の目的に使用される場合、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（h C G）製剤と併用されます。
- この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減せず、医師の指示に従ってください。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 女性が不妊治療に使用する場合、脳梗塞や肺塞栓を含む血栓塞栓症などを伴う重篤な卵巣過剰刺激症候群（お腹が張る、吐き気、体重の増加、尿量が減るなど）があらわれることがあります。
- この治療の必要性や注意すべき点などについて十分理解できるまで説明を受けてください。患者さんやご家族の方は、【この薬を使う前に、確認すべきことは？】、【この薬の使い方は？】および【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・ 過去にこの薬または性腺刺激ホルモン製剤およびこの薬に含まれる添加物で過敏症のあった人
 - ・ 卵胞刺激ホルモン濃度が高く、原発性性腺機能不全であると考えられる人
 - ・ 甲状腺や副腎に異常があり、病状が安定していない人
 - ・ エストロゲン依存性悪性腫瘍（乳がんや子宮内膜がんなど）のある人またはその疑いのある人
 - ・ アンドロゲン依存性悪性腫瘍（前立腺がんなど）のある人またはその疑いのある人
 - ・ 視床下部や下垂体腫瘍などの頭蓋内器官に活動性の腫瘍がある人
 - ・ 診断の確定していない不正出血のある人

- ・ 原因が特定されない卵巣腫大または卵巣嚢胞のある人
 - ・ 妊婦または妊娠している可能性のある人および授乳中の人
 - ・ 治癒していないまたは治療を要する血栓塞栓性疾患のある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

- ・ 過去に乳がんになったことがある人
- ・ 乳がんの家族素因が強い人、乳房にしこりがある人、乳腺症の人、乳房レントゲン像に異常がみられた人

〔女性が不妊治療に使用する場合〕

- ・ 血栓塞栓症がおこる危険性が高い人（患者さんや家族の方が過去に血栓塞栓症を経験したことがある場合など）
- ・ 子宮筋腫がある人
- ・ 子宮内膜症のある人
- ・ 未治療の子宮内膜増殖症のある人
- ・ 過去に卵管に疾患があった人

〔男性が低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の治療に使用する場合〕

- ・ 前立腺肥大のある人
 - ・ 下垂体や視床下部に腫瘍のある人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- 女性が不妊治療に使用する場合、この薬の使用前に患者さんとパートナーの十分な検査が行われます。原発性卵巣不全が認められる場合や妊娠できない性器奇形または妊娠に不適切な子宮筋腫の合併などの妊娠に不適切な場合は使用することができません。また、甲状腺機能低下、副腎機能低下、高プロラクチン血症、下垂体または視床下部腫瘍などのある人は、それらの疾患の治療が優先されます。
- 男性が低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の治療に使用する場合、この薬の使用前に内分泌学的検査やCTまたはMRI検査が行われます。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

● 使用量および回数

- ・使用量は、あなたの症状にあわせて、医師が決めます。
通常、使用する量および回数は、次のとおりです。

目的	使用量・使用回数
生殖補助医療における調節卵巣刺激	月経周期2日目または3日目から1日1回150または225国際単位を使用します。その後は卵胞の発育程度により1日450国際単位を最大として、用量が調節されます。
視床下部一下垂体機能障害又は多嚢胞性卵巣症候群に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発	1回75国際単位を連日使用します。その後、卵胞の発育程度により用量が調節されます。卵胞の十分な発育が確認された後、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤が使われます。
低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症における精子形成の誘導	1回150国際単位を1週間に3回使用します。精子形成の誘導が認められない場合は、1週間3回を限度に1回量を最大で300国際単位まで増量されることがあります。

● どのように使用するか？

- ・この薬は皮下に注射します。具体的な使用方法については、末尾の「【別紙】使用方法」を参照してください。
- ・1本のゴナールエフ皮下注ペンを複数の人で使用しないでください。
- ・カートリッジにひびが入っている場合や薬液に濁りや着色がある場合は使用しないでください。
- ・注射針は必ずJ I S T 3 2 2 6 - 2に準拠したA型の注射針を使用してください。
- ・使用後の注射針は、針キャップをせずに、専用の針捨て容器に入れてください。

● 使用し忘れた場合の対応

決して2回分を一度に使用しないでください。気が付いたときにすぐに1回分を使用してください。ただし次に使用する時間が近い場合は、その回は使用せずに次の指示された時間に1回分を使用してください。後日、医師にご報告ください。

● 多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

〔医療機関で使用される場合〕

使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

〔女性が不妊治療に使用する場合〕

- 本剤投与により、卵巣過剰刺激症候群があらわれることがあります。
 - ・一般不妊治療の場合は、この薬の使用および排卵誘発に使用する他の薬剤（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）等）の使用前に超音波検査により、卵巣の反応を確認します。
 - ・生殖補助医療の場合は、この薬の使用および卵胞の最終成熟に使用する薬剤（hCG等）の使用前に超音波検査や血液検査により、卵巣の反応を確認します。
 - ・自覚症状（下腹部の痛み、お腹が張る、吐き気、腰痛等）や急激な体重増加が認められた場合にはすぐに医師等に相談してください。
 - ・治療中は、超音波検査等により卵巣の大きさが確認されます。
 - 卵巣過剰刺激症候群の徴候が認められた場合には、この薬の使用を中止される場合があります。この場合は、少なくとも4日間は性交渉を控えてください。また、卵胞の最終成熟又は排卵誘発の延期または中止を含め、実施中の不妊治療の継続の可否について慎重に判断されます。卵巣過剰刺激症候群は、この薬の使用だけでなく、使用後にあらわれ急速に進行して重症化することがあるため、この薬の最終使用後も少なくとも2週間の経過観察が行われます。卵巣過剰刺激症候群は妊娠によって重症化して長期化することがあります。
 - 一般不妊治療の場合、卵巣過剰刺激の結果として、多胎妊娠^{*1}の可能性がります。
- ^{*1}：多胎妊娠：二人以上の胎児が同時に子宮内にいる状態
- 卵胞発育刺激を受けた患者さんの流産率は、一般の女性より高くなる可能性があります。
 - 生殖補助医療を受ける不妊女性では、異所性妊娠の可能性が高くなります。

〔男性が低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の治療に使用する場合〕

- この薬とhCG製剤の併用使用により精巣が発達した際に精索静脈瘤があらわれることがあるので、注意深く観察されます。

〔この薬を使用する全ての人に共通〕

- この薬を自己注射する場合、使用法および安全な廃棄方法について、次のことについて十分理解できるまで説明を受けてください。
 - ・ このお薬を注射後、副作用と思われる症状があらわれた場合や、注射を続けることができないと感じられた場合は、ただちに使用を中止し、医師または薬剤師に相談してください。
 - ・ 使用済みの注射針を再使用しないでください。
 - ・ 使用済みの本体および注射針については、安全な廃棄方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
 - ・ 使用する前に添付の「取扱説明書（在宅自己注射説明書）」を必ず読んでください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

〔女性が不妊治療に使用する場合〕

重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシー アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どき）、息苦しい
卵巣過剰刺激症候群 らんそうかじょうしげきしょうこうぐん	お腹が張る、吐き気、体重の増加、尿量が減る
血栓塞栓症 けっせんそくせんしょう	吐き気、嘔吐（おうと）、脱力、まひ、激しい頭痛、胸の痛み、押しつぶされるような胸の痛み、突然の息切れ、激しい腹痛、お腹が張る、足の激しい痛み

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	体重の増加、脱力、まひ、ふらつき
頭部	激しい頭痛
口や喉	吐き気、嘔吐（おうと）、喉のかゆみ

胸部	胸の痛み、押しつぶされるような胸の痛み、突然の息切れ、動悸（どうき）、息苦しい
腹部	お腹が張る、激しい腹痛
手・足	足の激しい痛み
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹
尿	尿量が減る



〔男性が低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症の治療に使用する場合〕



重大な副作用	主な自覚症状
アナフィラキシー アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	ふらつき
口や喉	喉のかゆみ
胸部	動悸（どうき）、息苦しい
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹

【この薬の形は？】

販売名	ゴナールエフ皮下注ペン150	ゴナールエフ皮下注ペン300
性状	無色澄明の液	無色澄明の液
形状		

販売名	ゴナールエフ皮下注ペン450	ゴナールエフ皮下注ペン900
性状	無色澄明の液	無色澄明の液
形状		

【この薬に含まれているのは？】

販売名	ゴナールエフ 皮下注ペン150	ゴナールエフ 皮下注ペン300	ゴナールエフ 皮下注ペン450	ゴナールエフ 皮下注ペン900
有効成分	ホリトロピン アルファ（遺伝子組換え）			
添加剤	精製白糖、ポリオキシエチレン（160）ポリオキシプロピレン（30）グリコール、L-メチオニン、リン酸水素二ナトリウム二水和物、リン酸二水素ナトリウム一水和物、 <i>m</i> -クレゾール、リン酸、水酸化ナトリウム			

【その他】

● この薬の保管方法は？

子供の手の届かないところに保管してください。

〔使用前〕

- ・凍結を避けて冷蔵庫など（2～8℃）で保管してください。光を避けてください。ただし使用期限内であれば3カ月間は、25℃以下で保管することもできます。

〔使用開始後〕

- ・光と湿気を避けて25℃以下で保管してください。
- ・使用開始後は28日以内に使用してください。

● 薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

● この薬の廃棄方法は？

- ・使用済みの注射針は、医師の指示に従って専用の廃棄容器に廃棄してください。
- ・ゴナールエフ皮下注ペン本体は家庭用の可燃（燃やす）ごみ箱に廃棄してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・ 症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、医師や薬剤師にお尋ねください。
- ・ この薬に関する一般的な事項（基本情報、注射・投与前の手技の確認など）に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：メルクバイオフーマ株式会社

メディカル・インフォメーション

電話：0120-870-088

受付時間：9時00分～17時30分

（土、日、祝日、当社休日を除く）

- ・ ゴナールエフ皮下注ペンの操作に関する質問は以下へお問い合わせください。

ゴナールエフ患者さん向けウェブサイト

<https://www.mbj-fertility-patients.jp/ja/home/gonalef.html>



メルクバイオフーマ ペイシェントサポートセンター

電話：0120-576-426

受付時間：9時00分～23時00分／年中無休

- ・ この医薬品の製造販売会社のホームページは下記をご確認ください。

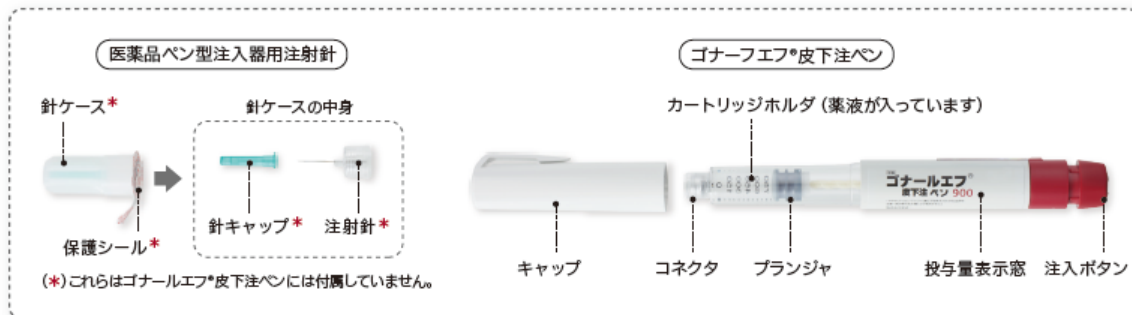
メルクバイオフーマ株式会社

<http://www.merckgroup.com/jp-ja/company/merckbiopharma.html>

【別紙】使用方法

この薬の使用に際しては、製品に添付されている取扱説明書（在宅自己注射説明書）を併せてご覧ください。主治医の指示に従って、正しくご使用ください。

■各部の名称



ゴナールエフ®皮下注ペンの準備

●注射を行う前に、以下を準備してください。

- ゴナールエフ®皮下注ペン
- 医薬品ペン型注入器用注射針
- 消毒用アルコール綿(酒精綿)
- 注射針が貫通しない廃棄容器

これらをあらかじめ清潔な場所に並べておきます。

▲注射をする時間は医師の指示に従ってください。

医薬品ペン型注入器用注射針 消毒用アルコール綿(酒精綿) 注射針が貫通しない廃棄容器



※医薬品ペン型注入器用注射針は、必ず医師より指示されたものをお使いください。

注射の準備を行う前に必ず手を洗ってください。手やご使用になる器具を清潔にしておくことが重要です。

① 本体のキャップを外す



- ・投与量表示窓が「0」に設定されていることを確認してください。
- ・ゴナールエフ®皮下注ペンに異常がないか確認してください。
- ・ゴナールエフ®皮下注ペンの本体に貼付されているラベルが医師から指示された種類と同一であることを確認してください。

② ゴム栓を消毒する



コネクタの先端のゴム栓を消毒用アルコール綿で丁寧に拭いてください。

※右上の写真のようにコネクタ全体を消毒すると、ねじ山にアルコールが残ることがあります。その状態で針を取り付けると、取り外すときに取れなくなりますので、先端のゴム栓のみを消毒してください。

- ▲ 外箱、ラベルに記載された使用期限を過ぎたものは使用しないでください。● 薬液に濁りや着色がある場合は使用せず、医師に連絡し、指示を仰いでください。
- 使用できないゴナールエフ®皮下注ペンは、医師の指示に従って廃棄してください。

注射の手順

● **注射針の取り付け** ⚠️ 針を取り付ける前に、次ページ「皮下注射をする」の手順を予め確認してください。

1 保護シールを剥がす



注射針の保護シールが破れたり、剥がれていないか確認してください。破れたり剥がれたりしている場合は使用できませんので、新しいものに取り替えてください。

2 針を取り付ける



図のように、針ケース内部の針を、ゴナールエフ®皮下注ペンの先端のコネクタのゴム栓にまっすぐ奥まで刺し、針ケースを時計回りに回します。少し抵抗を感じるまで回してください。強く締めすぎると取れなくなりますので注意してください。



- 注射のたびに新しい注射針をご使用ください。
- 注射針の再使用はできません。
- 針を取り付けずに注入ボタンを押さないでください。
- 強く回し過ぎると、注射針が外れにくくなる場合があります。
- 針ケースの回転が止まるまで筒先で軽く締めるだけで取り付けることができます。
- 使用しなかった針についても、注射針が真通ししない薬液容器に入れて廃棄してください。

YES: 新規です

新規のペンですか？

NO: 使用中です

● 初回空気抜き

初回使用時に大きな気泡がある場合のみ空気抜きを行ってください。初回の場合でも気泡が小さいか、ない場合は空気抜きは不要です。

※ 1回分の空気抜きに必要な薬液は余分に充填されています。



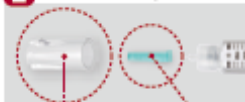
大きな気泡とは...
針先を上に向けたときにコネクタ上部の全周を覆うほどの気泡が目立つです。

1 単位を25に設定する



注入ボタンを時計回りに回し、投与量表示窓の数字を25の表示に合わせます。回しすぎてしまった場合には、逆に回して正しい値に合わせてください。

2 針の状態を確認する



針ケースは注射針を取り外す時にも使用しますので捨てないでください。

針キャップはそのまま廃棄してください。

針ケースと針キャップを取り外し、針が曲がっていないかなど状態を確認してください。

⚠️ 針キャップを注射針に再装着しないでください。注射針で筒先を刺して怪我をしたり、感染のおそれがあります。空気抜きを行う前に注射針が正しく取り付けられていることを確認してください。

3 気泡を集める



注射針を上に向けて、カートリッジホルダを軽く揺らして気泡を上部に集めます。

4 空気を抜く



注射針を上に向けたまま、注入ボタンを完全に押し込み投与量表示窓が0の表示になっていることを確認します。

⚠️ 気泡が多少残っていても空気抜きは複数回実施しないでください。細かい気泡は完全に抜くことはできません。

右上の「● 投与量設定」に進む

● 投与量設定

使用開始後のペンでは、気泡があっても使用前の空気抜きは実施しないでください。薬液が不足し、予定した回数の投与ができなくなる可能性があります。

1 投与量を設定・確認する



注入ボタンを時計回りに回して投与量表示窓の数字を医師から指示された投与量に合わせます。もし回しすぎた場合には、注入ボタン反対に回して正しい投与量に合わせてください。

※ ゆっくりと回してください。素早く回すとダイヤルが故障するおそれがあります。

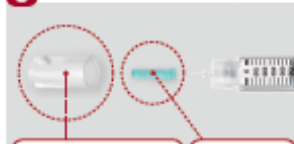
2 注射部位を消毒する



医師から指示された注射部位をアルコール綿で消毒し乾かしてください。消毒した部分に触れないよう清潔に保ってください。

⚠️ 注射部位は毎回変えます。裏面の「注射部位例」を参照してください。

3 針ケースと針キャップを取り外す



針ケースは注射針を取り外す時にも使用しますので捨てないでください。

針キャップはそのまま廃棄してください。

針ケースと針キャップを取り外し、針が曲がっていないかなど状態を確認してください。

⚠️ 針キャップを注射針に再装着しないでください。注射針で筒先を刺して怪我をしたり、感染のおそれがあります。また、注射針が折れたり曲がったりして使用できなくなります。

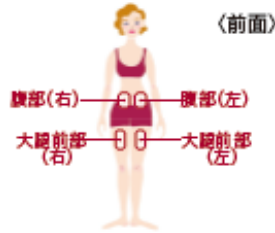


次の手順に進む前に、医師から指示された単位に設定できているか確認してください。誤った投与量を注射した場合、効果や副作用の発現に影響が出る可能性があります。

[注射部位例] 1回ごとに注射部位を変えてください。注射部位については、医師の指示に従ってください。

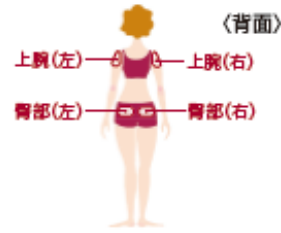
自分で注射する場合

皮下注射に適した部位は前面図の通りです。1回ごとに注射部位は変えてください。連続して同じ部位に注射しないでください。



家族に注射してもらう場合

左の前面図の部位に加え、背面図の4カ所にも皮下注射ができます。



●皮下注射をする ⚠️ 針キャップが取り外されていることを確認してください。

1 針を刺し注入 ボタンを押す



皮膚に垂直(90°)に刺す

針キャップが取り外されていることを確認した後、表示されている数字が見えるよう、投与量表示窓を上に向けず、投与量表示窓を上に向けず、ゴナールエフ®皮下注ペンを利き手で持ち、注射針を皮膚に垂直(90度の角度)にゆっくりと刺します。

⚠️ 薬液を注入ボタンにかけず針を刺してください。投与まで薬液は注入ボタンにかけないでください。薬液が出る場合があります。



◀図のように利き手とは反対側の手で投与量表示窓の下側からペンを支え、利き手の親指を注入ボタンの中央に移動させ、投与量表示窓の数字が0になるまでまっすぐに注入ボタンを押し込みます。

親指を注入ボタンの真中に置き、まっすぐ最後まで完全に押し込み



※その他の方法として、片子(利き手のみ)で投与することもできます。針を付ける前に、どちらがやりやすいか確認するとよいでしょう。

⚠️ 注射針を斜めに刺すと注射針が曲がったり、注入ボタンを最後まで押せなくなってしまう可能性があります。

2 投与量表示窓を確認しながら注入 ボタンを押し続ける



投与量表示窓の数字が0になります

注入ボタンを最後まで押し込むと、投与量表示窓の数字が0になります。注入ボタンは押したままの状態です。

[投与量表示窓の数字が0になる前に注入ボタンが進まなくなった場合]
注入ボタンの真中をまっすぐに押すことを意識してください。それでも最後まで押しきれない場合は、ペンの薬液の残量が不足している可能性があります。それ以上無理に押し込もうとせず、③の手順に従い針を体から抜いてください。針を抜いた後に薬液の残量を確認します。



■ 薬液の残量がない(プランジャがペンの先端付近にある)場合
投与量表示窓に表示される数字が今回の投与分の不足量です。新しいゴナールエフ®皮下注ペンに、新しい注射針を取り付け、投与量を不足量に設定して注射してください。(例: 投与量表示窓の数字が「50」で止まった場合、新しいゴナールエフ®皮下注ペンで投与量を「50」に設定し、注射してください)



■ 薬液の残量がある(プランジャがペンの先端付近にない)場合
針の不具合の可能性があります。新しい針に取り換えて、投与量設定を変えず再度注射してください。針が不足する場合、医療機関で追加の針をもらってください。

上記の方法で解決しない場合、ゴナールエフ®皮下注ペン本体の不具合がもしもありません。医療機関に連絡をして、指示を仰いでください。薬液の残量はあらかじめ計算して、新しいゴナールエフ®皮下注ペンへの交換時期を把握しておくとういでしょう。

3 そのまま10秒以上維持し、注入ボタンを押したまま針を抜く



注入ボタンを
押したまま10秒間以上待つ → 押したまま針を抜く

注入ボタンを押したまま10秒以上待ち、注入ボタンを押したまま針を体から引き抜きます。その後、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。

⚠️ 注入ボタンを押している親指の力を緩めるとカートリッジホルダ内に血液が混入する場合があります。血液が混入した場合は、次に注射する際には新しいものに交換してください。

注射が終わったら

1 針ケースを取り付ける



カートリッジホルダをしっかりと持ち、針ケースをまっすぐに取り付けます。注射針が傷を刺さないよう注意してください。

3 針を廃棄する



使用済の注射針は、医師の指示に従って注射針が買えない廃棄容器に入れて廃棄してください。使用済の注射針を再度使用したり、他の人と共用しないでください。

2 針を取り外す



針ケースを反時計回りに回し、注射針を取り外します。

4 本体のキャップをしめる



ゴナールエフ®皮下注ペンにキャップをしてください。また、薬液がなくなったゴナールエフ®皮下注ペンは、医師の指示に従って廃棄してください。

分別廃棄の注意点

- 注射が終わったら使用済みの注射針は針キャップをせず、注射器に針をつけたままにしてください。
- 使用済みの注射針は、医師の指示に従って専用の廃棄容器に廃棄してください。
- 廃棄容器は、処方された医療機関に持参、もしくはお住いの市区町村の規則に従って廃棄してください。



- 針キャップ、保護シール、ゴナールエフ*皮下注ペン本体、消毒用アルコール綿(酒精綿)は家庭用の可燃(燃やす)ごみ箱に廃棄してください。



ご自宅での保管について

使用開始前

- 薬剤への光の影響を防ぐため、外箱に入れて保管してください。
- 2～8℃(冷蔵庫など)で保存してください。ただし、冷気の吹き出し口など薬剤が凍りそうな場所は避けてください。
- 冷蔵庫での保管が難しい場合は、25℃以下の室内にて3か月保存できません。ただし、直射日光が当たらないようにしてください。
- 未使用でも上記記載の使用期限が過ぎた場合は廃棄してください。
- お子さんの手の届かない場所で保管してください。

使用開始後

- 注射針を取り外し、ペン本体のキャップを装着してください。外箱に入れても入れなくてもよいです。
- 使用開始前と同様の方法で保管してください。
- 使用開始後の使用期限はいずれの保存方法でも28日です。それ以降は薬剤が残っていても廃棄してください。

一度でも凍った薬剤は、解凍しても使用できません。使用開始前・使用開始後にかかわらず、保冷をせずに、25℃を超える車内や室内で一時的にでも保存した薬剤は使用できません。保管温度が不明だった場合、使用してよいか判断に迷う場合は、すみやかにかかりつけの医療機関にてご相談ください。